

令和元年決算予算特別委員会 事業評価シート ②

分科会名		総務教育分科会
NO.	予算科目	事業名
	一般会計	児童クラブ運営事業・放課後子ども教室事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ 評価の視点 客観的な評価のために、両事業の外部評価を行う必要性は、市民にとってあるか。	①きわめてニーズが高い(25点) ②ニーズが高い(20点) ③どちらかといえばニーズが高い(15点) ④どちらかといえばニーズが低い(10点) ⑤ニーズが低い(5点) ⑥ニーズがない(0点)	1 2 2 1
(2)市が行う必要性 評価の視点 市の意向に沿った事業展開がなされているかチェックするために、市は評価制度を構築する必要性はあるか。	①きわめて必要性が高い(25点) ②必要性が高い(20点) ③どちらかといえば必要性が高い(15点) ④どちらかといえば必要性が低い(10点) ⑤必要性が低い(5点) ⑥必要性がない(0点)	1 4 1
(3)費用に見合った効果 評価の視点 コストをかけて外部評価を行うことは、その成果・効果はみられるか。	①きわめて効果的である(25点) ②効果的である(20点) ③どちらかといえば効果的である(15点) ④どちらかといえば効果的でない(10点) ⑤効果が少ない(5点) ⑥効果がない(0点)	 2 4
(4)目標の達成状況 評価の視点 外部評価を導入した場合、各事業の目標を達成する手助けとなるかどうか。	①きわめて成果がある(25点) ②成果がある(20点) ③どちらかといえば成果がある(15点) ④どちらかといえば成果がない(10点) ⑤成果が少ない(5点) ⑥成果がない(0点)	 4 2

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をもとに転記したもの

分科会評価

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由
4 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適正である	今回、児童クラブ運営事業と放課後子ども教室事業の2事業を選択したが、評価の対象は『内容の評価』ではなく、その『評価体制の評価』である。従って、評価が高いということは、重要性がある事を意味している。 評価点の総計は70点となり、“5. 良好である”に近い“4. おおむね適正”となっており、分科会全会一致で、外部(第三者)評価導入を重要課題と捉えている。
1 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※両論併記	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

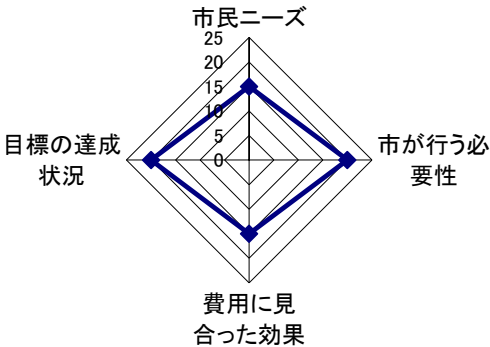
提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)
4 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	今回、児童クラブ運営事業と放課後子ども教室事業の2事業を選択した。ただ、評価の対象は2事業の『内容の評価』ではなく、その『評価体制の評価』である。2事業の『評価体制の評価』をすることによって守谷市全体の評価制度の構築に繋がっていくことを期待している。 事業の発注者である行政は、事業の内容の充実や質の向上に責任があり、客観的に第三者的な立場に立って事業を評価することは、ますます重要になってくる。 今後、指定管理者・業務委託事業も増えることと思われ、評価体制の充実が望まれる。また、各事業に対して各評価委員会の設置も必要である。 そのためには、外部(第三者)評価委員会の制度のリサーチや、委員会の設置や運営等に予算処置を行い、拡充する必要がある。
予算	
4 4 拡充する 3 継続する 2 縮小する 1 予算措置しない	

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 15	事業に対する市民及び利用者の声を反映し評価する必要性は、市民にとって高い。ただし、行政が現在行っている評価方法に対する市民の認識は高いとは言えない。このような観点から、評価点は②20点ではなく、③15点と評価した。
○ 20	行政が期待しているように事業が遂行されているかをチェックすることは必要であり、行政が主体性を持って行う必要性は高い。
○ 15	外部(第三者)評価委員会の委員が中立的に人選が行われ、適正な評価ができれば、コストがかかったとしても、それに見合う効果は期待される。
○ 20	事業目的の達成に向けて外部評価導入は、単年度でも成果が期待できるが、数年の積み重ねは目標達成の大きなサポートになる。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会レーダーチャート



課題と反省

令和元年決算予算特別委員会 事業評価シート

②

分科会名	都市経済分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
	一般会計	市民農園事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ 評価の視点 市民農園を利用したいという、市民のニーズはあるか。	①きわめてニーズが高い(25点) ②ニーズが高い(20点) ③どちらかといえばニーズが高い(15点) ④どちらかといえばニーズが低い(10点) ⑤ニーズが低い(5点) ⑥ニーズがない(0点)	2 2 1 1 1 1
(2)市が行う必要性 評価の視点 市が農地を賃借し、市民に貸し出す必要があるか。	①きわめて必要性が高い(25点) ②必要性が高い(20点) ③どちらかといえば必要性が高い(15点) ④どちらかといえば必要性が低い(10点) ⑤必要性が低い(5点) ⑥必要性がない(0点)	3 2 2 1 1 1
(3)費用に見合った効果 評価の視点 現在の利用率から見て、歳入と歳出のバランスは取れているか。	①きわめて効果的である(25点) ②効果的である(20点) ③どちらかといえば効果的である(15点) ④どちらかといえば効果的でない(10点) ⑤効果が少ない(5点) ⑥効果がない(0点)	3 3 3 3 3 3
(4)目標の達成状況 評価の視点 利用状況は、目標を達成しているか。	①きわめて成果がある(25点) ②成果がある(20点) ③どちらかといえば成果がある(15点) ④どちらかといえば成果がない(10点) ⑤成果が少ない(5点) ⑥成果がない(0点)	1 3 3 3 2 2

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をもとに転記したもの

分科会評価

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由
3 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	瓜代農園における貸出率が向上しない限り赤字は解消されない。今後は、貸出率を上げるため新たなPR方法を考える必要がある。また赤字の一つの要因である維持経費の削減にも努めなければならない。少数意見として今後は地権者からの借地料を見直すべきとの意見もあった。
2 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 ※要検討 ※両論併記	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

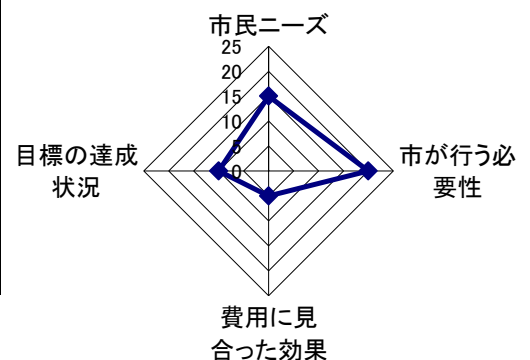
提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)
4 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	瓜代農園については、維持管理費の削減に加え、立地条件の良さや設備が充実していることなどをもっとPRすることで貸出率を向上し、収支改善に努めなければならない。なお、貸出率の向上がなされない場合は、瓜代農園の規模を含めた抜本的見直しを行うべきである。また、女性が一人でも安心して作業ができる環境も必要である。
3 4 拡充する 3 継続する 2 縮小する 1 予算措置しない	

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
15	土に親しむ農園は100%の貸出率であるのに対し、瓜代農園の貸出率は67%~69%と低迷しているが、定年退職を迎えたシルバー人口が年々増加をしていることから、全体的にみるとニーズはある。
20	市が農地を賃借し、市民サービスの一環として市民に貸し出す必要性は高い。
5	瓜代農園は歳入に対して歳出が多く収支は赤字であり、バランスという点からは、効果が少ない。
10	土に親しむ農園の貸出率100%に対し、瓜代農園の貸出率は、ここ数年67%~69%と低く目標は達成できていない。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会レーダーチャート



課題と反省

執行部の説明、現地確認を行ったが、瓜代農園の貸出率の低下に繋がる根本的な原因が見いだせなかった。

令和元年決算予算特別委員会 事業評価シート

②

分科会名	保健福祉分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
	一般会計	食生活改善推進事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ 「評価の視点」 推進員ではなく、全市民からの視点として求められているか。市民から知られているか。	①きわめてニーズが高い(25点) ②ニーズが高い(20点) ③どちらかといえばニーズが高い(15点) ④どちらかといえばニーズが低い(10点) ⑤ニーズが低い(5点) ⑥ニーズがない(0点)	1 1 2 2
(2)市が行う必要性 「評価の視点」 国・県との関係を含め、制度的にどうか。	①きわめて必要性が高い(25点) ②必要性が高い(20点) ③どちらかといえば必要性が高い(15点) ④どちらかといえば必要性が低い(10点) ⑤必要性が低い(5点) ⑥必要性がない(0点)	3 3
(3)費用に見合った効果 「評価の視点」 現在の守谷市の予算は他市と比較しても少ない。しかし効果は上がっている。その点から考える。	①きわめて効果的である(25点) ②効果的である(20点) ③どちらかといえば効果的である(15点) ④どちらかといえば効果的でない(10点) ⑤効果が少ない(5点) ⑥効果がない(0点)	1 3 2
(4)目標の達成状況 「評価の視点」 目的が明確化されているか。食育推進計画における、数値目標等は達成されているか。	①きわめて成果がある(25点) ②成果がある(20点) ③どちらかといえば成果がある(15点) ④どちらかといえば成果がない(10点) ⑤成果が少ない(5点) ⑥成果がない(0点)	1 1 4

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をもとに転記したもの

分科会評価

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由
4 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	少ない予算と人数で事業を活発に行っているの、おおむね適正である。他の健康増進事業や食育推進計画と連携し、市民の食生活全体に係る取り組みとして、食生活推進員は更に活躍していただきたい。そのためには推進員の人数の見直しや、養成講座受講者の積極的な活動が望まれる。また子育て世代包括支援センターやまちづくり協議会とも連携して進める事で、成果は更に上がるものと考え。
1 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※両論併記	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

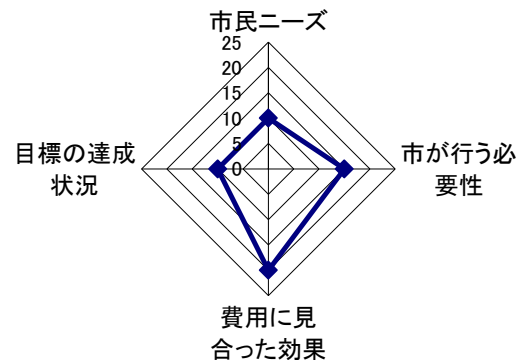
提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)
4 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	1.市民への周知(認知度の向上) 2.養成講座の定期実施 3.啓発や活動に必要な物品・教材の整備・拡充
予算	
3 4 拡充する 3 継続する 2 縮小する 1 予算措置しない	

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
10	推進員たちが、食生活を改善し健康づくりに貢献していることが市民全体には知られていない。
15	歴史ある事業であり、国民の食生活の啓発につながる事業である。国、県から市町村に求められている意義のある事業である。現在、健康な生活を考えた時に必要である。
20	市の予算は少額であり、推進員は1000円/1年の会費を納入している。43人のメンバーで、1年間に調理実習を90回開催で527名の参加あり。児童クラブや高齢者の会、3歳児健診時や特定検診時にも啓発活動を行っている。
10	推進員の活動が具体的な効果、例えば高齢者の医療費の軽減や子どもたちの健康診断で改善が見られるなどの明確な数字は出ていない。食育推進の啓発活動は開催回数の増加等を数値目標として活動すべきと考える。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会レーダーチャート



課題と反省

【行ったこと】
・担当課からのヒアリング
・推進員との一般会議
・推進員の実施する調理実習の見学(2か所)
【課題】
・他市の予算の使い方及び活動内容についての調査